

銀行名	肥後銀行
タイトル	後継者不在の医療法人に対する取組事例
取組み内容	<p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療法人 A 会は県南の郡部で開業。地域の医療機関との連携を重視し、地域密着型の医院経営を実践。 ・ 当行とは、取引がなかったものの、支店の近隣という事もあり、定例的に渉外担当者が訪問。資金的なニーズはなかったが、後継者不在の問題を抱えており、後継者の候補者選定および事業承継の相談があった。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業承継に対する支援を実施するため、支店から当行本部の事業承継担当者へ連絡。また、医療分野という事もあり、当行本部の医療チームとも連携し、後継者の候補者の選定を開始した。 ・ 医療チームのネットワークを活かし、複数名の候補者を選定。医療法人 A 会の理事長との面談をセッティングし、最終的に候補者を 1 名に絞り、具体的な交渉に入った。 ・ 当行は仲介に入り、税務的なリスクや、法律の面から見た見解などを示し、税理士や弁護士、司法書士などの外部の専門家と連携をとりながら、スキーム立案、スケジュール管理を実施。 ・ また、出資持分の買取資金や、資金繰りについてもアドバイスを実施。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 約 3 年の年月を要し、事業承継の成約に至った。 ・ 医療法人 A 会は、すべての医療スタッフの継続雇用を実現。また、地域の人たちへは、以前と変わらない医療サービスを提供することができた。 ・ また、買い手も既存の患者を引き継ぐ形で開業できたことから、開業当初より安定的に医院経営をスタートすることができた。

銀行名	肥後銀行
タイトル	外部専門家と連携した経営改善に向けた事業計画策定支援
取組み内容	<p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ B社は、県内有数の運輸会社グループで、エリア毎にグループ3社を展開。 ・ 燃料費高騰や競合激化等によりB社を取巻く環境は厳しく、収益は低下基調であった。社内で様々な改善計画等を立案していたが、なかなか実現できず、抜本的な改革が必要な状況であった。 ・ また、業歴が長く、先代社長が保有する株式評価額が高いことから、自社株の承継においても課題があった。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当行本部の事業承継チームにて資本政策について提案を実施。 ・ しかし、目先の収益改善が急務であったことから、経営改善に向けた対応を優先。 ・ B社内部での対応のみでは、計画の実現性が低いことから、提携コンサルティング会社を紹介。 ・ コンサルティング契約を締結し、グループ全体の収益改善という新たな視点から提案を行い、以下の取組みを実施。 <ul style="list-style-type: none"> マーケット分析、財務分析等 事業計画の策定支援、給与などの労務アドバイス 事業計画のモニタリング、プロジェクトチームの運営支援 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社内の問題点の顕在化、および社員の意識向上に寄与。 ・ 外部専門家を導入したことにより、計画の実効性が高まった。現在、収益改善に向けて、策定した事業計画をもとに経営陣と社員が一体となった取組みを実施中。

銀行名	肥後銀行
タイトル	6次産業化の新事業に対する支援事例
取組み内容	<p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内食品卸業者C社は、食品メーカー等から仕入を行っていた商品の、一部内製化を検討。地元農業者と連携した新たな農産物の事業展開を計画。 ・ 安定した仕入を行うための地元農業者との連携についてと、6次産業化に対する資金調達手段について、当行に相談があった。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当行は、6次産業化により地元農産物のブランド向上に繋がる事業であると考え、行政と一体となって支援を実施。 ・ また、地元農業者との連携に際しては、当行がマッチングを支援。当行取引先の農業者を県内食品卸業者C社に紹介し、共同で新会社を設立。 ・ 資金面の支援は、補助金と肥後6次産業化ファンドの活用を検討。また、事業計画作成や補助金手続きにおいても当行と行政が連携し支援を実施。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 補助金とファンドを活用した新事業展開に繋がった。 ・ 地域特産品を活用したバリューチェーンの構築により、農業の付加価値向上及び雇用の創出等、地域活性化に繋がった。



銀行名	肥後銀行
タイトル	地域の若手農家との連携及び、地域観光資源のPRに対する取組事例
取組み内容	<p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 熊本市郊外にあるD支店は、地域の若手農家が毎月開くマルシェに着目し、マルシェを起点とした地域活性化を検討。 ・ まず、D支店がマルシェの実行委員である若手農家を対象に勉強会を毎月開催。マルシェの運営方法や販路開拓等について議論を重ねた。 ・ また、マルシェを通じた地域への波及効果を狙い、D支店が仲介して若手農家と異業種との連携を行った。 ・ また、近隣には良質の温泉施設も複数あり、地域温泉の知名度向上に向けたPR方法についても検討。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ D支店が開催する勉強会には、商工会青年部、旅館経営者、行政職員も参加し、地域の活性化について協議。 ・ 地域の特産であるスイカが旬を迎える5月には“スイカマルシェ”を開催。D支店の行員も20名参加し、地元の観光や農産物をPRするチラシを配布。 ・ また、D支店の移転1周年記念に合わせ、来店客に地元温泉の無料入浴券を配布するキャンペーンを実施。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ “地域に身近な銀行に”というD支店のコンセプトが地域に浸透し、D支店を中心に異業種が連携し地域活性化に繋がった。 ・ 現在も地域が一体となり、史跡や農園・温泉・飲食店を巡る観光ルートの構築を検討する等、地域観光資源活用についての協議を継続。

銀行名	肥後銀行
タイトル	再生ファンドの活用による事業譲渡に向けた取組み
取組み内容	<p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ E社は、地場大手の醤油・味噌製造業者。 ・ 食文化の変化に伴う醤油消費量減少に加え、地場スーパーの破綻により直販主体から問屋売り主体となり収益力が低下。 ・ 本社工場および多角化への投資は十分な効果が得られず、過剰な債務を抱えたうえに、海外子会社の業績不振による資金流出から資金繰りが逼迫。 ・ E社単独での事業継続は困難であったが、従業員の雇用維持、一般債権者への影響等を考慮。E社は地場で相応の知名度があることから、スポンサーの招聘および、官民ファンドを活用した金融支援を柱とした抜本的再生計画を策定。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 醤油・味噌の製造販売事業を、地場の食品メーカーF社に事業譲渡。 ・ 事業譲渡後、E社を特別清算することで既存株主は権利を喪失。 ・ 代表権を有していたE社の社長及び副社長は、経営責任の履行として役員貸付債権の放棄および経営者保証ガイドラインに則り、個人財産を抛出。 ・ 金融債権者は全債権を一律の損失負担にて官民ファンドへ譲渡することにより、実質的な債権放棄を実施。 <p>【取組みの成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポンサーであるF社による事業継続により、従業員の雇用維持、一般債権者の保護など、地域経済への悪影響を抑制。

銀行名	肥後銀行
タイトル	環境保全活動の実施
取組み内容	<p>植樹・下草刈りボランティア</p> <p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成5年に緑化資源保護のための「法人の森林制度」に参加。平成13年から財団法人肥後の水資源愛護基金(現、公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金)とともに植樹活動を開始。さらに、創立80周年記念として、平成18年2月に、阿蘇市小倉地区の森林52haを取得、「阿蘇大観の森」と命名。以後、水源涵養林の保全・育成に積極的に取り組んでいる。 <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年4月に行員ボランティアによる植樹活動、毎年7月に下草刈りを実施。 ・植樹面積累計48.6ha ・植樹本数累計118,800本 ・ボランティア参加人数累計10,477人 <p>田植え・稲刈りボランティア</p> <p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年2月、地下水保全及び耕作放棄地解消を目的に、公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金と阿蘇市との間で「農業・水田湛水事業に関する協定」を締結。 <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「阿蘇水掛の棚田」と命名した棚田において、平成23年以降、毎年5月に当行グループ役職員等による田植えを、10月に稲刈りを実施。 ・田植え・稲刈り面積約1.5ha ・ボランティア参加人数累計3,150人 <p>草原支援</p> <p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地下水保全活動の一環として、阿蘇の草原保全・再生に向けた活動を実施。 <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年、阿蘇草原再生協議会に寄付実施。 ・同年、阿蘇の草原再生への取組みの一環として、「あか牛」の飼育頭数増加のため、当行役職員有志が「あか牛オーナー制度」に参加。 ・平成26年「阿蘇グリーン定期預金」の取扱開始。 <p>お預け入れ総額に応じて、運用収益の一部(616万円)を阿蘇世界農業遺産基金に寄付。</p>

銀行名	肥後銀行
タイトル	環境保全啓発活動
取組み内容	<p>「わたしのまちの と×・熊本」環境フォトコンテストの実施</p> <p>【動機】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度より、環境啓発活動として官民学一体となって実行委員会を組織し開催。 <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度で9回目。第8回の応募総数は2,256点。県下の小中高を中心に、過去最多応募数。 <p>DVD「水はみんなの命」制作 - 熊本の水資源愛護啓発プログラム -</p> <p>【動機】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当行が永年取り組んでいる熊本県下の水資源の涵養・保全活動の更なる充実と、住民の「かけがえのない水への思い」の深まりと水保全の実践活動への拡がりに役立てる活動を検討。 <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金が、熊本の水資源の啓蒙を図る目的でDVDを制作、県下全学校向け配付。 ・くまモンバージョン、英語版を別途作成

銀行名	肥後銀行
タイトル	社会貢献活動
取組み内容	<p>文化事業支援</p> <p>【動機】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本の歴史・文化を守り、次世代に継承するため <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化情報発信の拠点として「肥後の里山ギャラリー」を設置。開館記念「細川護熙の世界」開催来館者数約7千人（平成27年5月開館） ・美術展への協賛（毎年） 平成27年度は、熊本県立美術館開催「印象派のふるさと ノルマンディー展」に特別協賛。 <p>スポーツ振興</p> <p>【動機】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内のスポーツ振興に貢献するため。 <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年、女子駅伝部創部 ・各種スポーツイベントへの協賛（毎年）（「郡市対抗熊日駅伝」特別協賛、「熊本城マラソン」事業協賛） <p>地域行事への参加</p> <p>【動機】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントの活性化に貢献するため <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本城マラソン清掃ボランティア約400名参加（毎年） ・「火の国まつり」約100名参加（毎年） <p>福祉活動</p> <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人 熊本県視覚障がい者福祉協会へ点字カレンダー500部贈呈。（毎年）

銀行名	肥後銀行
タイトル	学生向け金融教育
取組み内容	<p>【経緯】 金融情勢が変化する環境下、金融の仕組みや取引のルール等に対する国民の知識・理解を深めることの重要性が提起されている。学校に対する金融教育支援への取組みを下記の通り開催。</p> <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで金融セミナーという形で実施してきた「若年社会人、一般社会人、高齢者」の3つの年代層に加え、平成27年度から新たに学生への金融教育を積極的に展開開始。 ・対象：小学生、中学生、高校生、大学生 具体的な運用、詳細については個別応談可 ・この金融教育に係る重要なサポート役として、「コミュニケーションロボット“パルロ”」(富士ソフト)を使い、子供でもわかりやすく、且つクイズ形式などを通して楽しく学べる金融教育プログラムを作成し、随時開催中。 《プログラム例(小学生向け授業)》 パルロ自己紹介、コミュニケーション機能披露 第一部 お金に関する ×クイズと解説 (講師：パルロ 出題と解説) ご褒美タイム(パルロとしりとりあそび) 第二部 銀行のしくみとお金の使い方 (講師：当行フィナンシャルプラザスタッフ) <p>【成果】 《平成27年度》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本大学附属小学校4年生3クラス(5月) 計105名 ・熊本市立白川小学校5~6年生(7月) 計154名 <p>現在県下学校より開催依頼があり、順次開催予定</p> <p>= 授業風景 =</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>